

<p>緑化募金にご協力下さい</p> <p>今年も助成を受けて、ダグマ山系25ヘクタールで、在来種の苗木及び果樹苗約1万本の植栽と自給作物の等高線耕作を組み合わせたアグロフォレストリーを実施することになりました。事業資金のうち20万円が不足しています。植林・緑化に関心がある方のご協力をお待ちしています。</p>	 <p>2008年1月25日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
--	---	--

グローバルに(地球規模で)考え、ローカルに(地域から、できることから)活動する

「環境元年、エコウォーズ、怒る天 人に牙、温暖化の脅威急加速」

元日の新聞一面の見出しです。砂漠化が進むアフリカで、ドアに迫る砂を呆然と見つめる家族の写真もありました。テレビの正月特別番組でも地球温暖化に関するものがいくつか放送されました。

多くの犠牲者がでたバングラデシュのサイクロンなど温暖化が原因とされる自然災害が続いた2007年が明けて、今年が気候変動への取り組みが注目されるG8 洞爺湖サミット開催の年です。マスコミを通じて市民の関心が一層高まると思われます。環境問題に取り組むNGOにとって追い風となることは確実で、私たちもアグロフォレストリー事業への理解が広がることを期待しています。

影響力の点でマスコミにはかないませんが、NGOも日頃から、世界の環境・貧困・人権問題を「そんなの関係ない」では済ませられないと機会を捉えて訴えてきました。国や国連・国際機関への提言活動も盛んです。昨年1月31日に、このようなNGOやNGOネットが中心となって「G8サミットNGOフォーラム」が発足しました。環境、貧困・開発、人権・平和の三つのユニット合計126団体が洞爺湖サミットに照準を合わせて議論を重ね、10月には各ユニット別に提言書も作成されました。

現地での支援事業に軸足を置く私たちHANDSのアドボカシー(広報啓発活動)は、会報・ホームページ・各種イベント出展、年1回のセミナー開催と限定的です。JANICやYNNなどのNGOネットワーク経由で案内をいただき、昨年10月の「2008年G8サミットに向けて日本の市民社会ができること」と題したシンポジウムに会員の長橋さんと参加しました。

参加者はNGOスタッフ、市民、学生など合計230名。パネリストの講演に続いて活発な質疑応答が行われ、

先進国首脳会議/G8サミットに物申すNGOフォーラムへの期待の大きさを感じました。続く分科会は、「貧困・開発」に参加しました。会場で配布された提言書は50ページと読み応えのあるもので、これに至る議論に当初から参加できなかったのが悔やまれました。

この提言書7つの課題の一つ「気候変動と貧困」の項目には、「気候変動の問題には歴史的不正義が隠れています。この問題を起こしてきたのは、主に先進国であるにも関わらず、その最も深刻な影響を受けるのは、これに対応するために必要な資源を持たない最貧国の、特に最貧層の人々です」とあります。

私たちHANDSはこうした最貧地域で各種事業を行っていますが、同時に先進国に住むものとして、改めて自らの生活を見直し、国や国際政治に影響力を与えるアドボカシーにも参加する責務を感じました。



山岳部斜面での植林の様子

先日、PFPからダグマ山系アグロフォレストリー5カ年計画策定中のメールが届きました。「点」でしかなかった緑化がいずれ「面」となり、空港に向かって下降する機内から、多品種の生き生きとした森を確認できる日が来るかもしれません。

アドボカシーとともに、今年も現地先住民族の村での各種事業を着実に進めてまいりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いたします。(山崎)